

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
<p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1-1 公式ホームページの内容を点検し、中学生向け(保護者をも意識)のコンテンツの更新をはかるとともに英語での情報発信力の強化をはかり、国際化推進をPRする。</p> <p>①-1-2 市町村の中学校校長会や中学校への訪問活動を行うとともに、中学生と保護者向けの学校紹介資料を送付するなどの広報活動を行う。</p> <p>①-1-3 学内運営決定組織と連携し、記念事業の広報活動を通じて、社会や入試広報対象者に本校の歴史、教育機関としての魅力をアピールしていく。</p>	<p>①-1-1 公式ホームページでは入試説明会やR5年度入試日程・募集要項の情報を学生課で掲載した。また、学校行事や学生の活躍についての話題は写真を多用し、本校に入学したら充実した学生生活が過ごせるイメージを持ってもらえるように努めている。さらに、英語向けホームページもコンテンツを見直し、動画を織り交ぜながら学校紹介する形式に改めた。</p> <p>①-1-2 志願者実績のある中学校を中心に102校の中学校訪問を実施した。その結果、オープンキャンパスでは昨年から約3割の増加となる約1,040名の中学生、保護者から参加を頂いた。</p> <p>①-1-3 企画運営会議や担当課と連携し、60周年記念講演会(学生1、2年対象)と記念シンポジウム(外部の参加者あり)を開催し、学内外に本校の魅力をアピールした。</p>	<p style="text-align: center;">◎: 既に達成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、コンテンツの更新を続ける ・学生目線のコンテンツをさらに増やす ・古くなったコンテンツを整理
<p>①-2-1 広報戦略室と教務委員会が連携して学校説明会の日程を、6月、8月、10月等の複数回に分散させて実施する。入学者確保のための高専の魅力を伝える。</p> <p>①-2-2 本校主催のオープンキャンパスおよび入試説明会を企画・実施する。中学校で開催される学校説明会の参加要請には確実に応え、PR活動を行う。本校教員を小中学校等に派遣する出前授業も行うとともに、小中学校の校外実習や総合学習のための上級学校訪問も積極的に受け入れ、校内見学や体験授業の実施により小中学生に本校の魅力を伝えていく。</p>	<p>①-2-1 8月のオープンキャンパス時と10,11月の県内各地で実施している入試説明会でR5年度入試の注意事項や本校の魅力を説明している。なお、広報戦略室が県内中学校教員の意見を吸い上げ、教務入試委員会と協議して改訂した募集要項についてはより注意して周知を行った。</p> <p>①-2-2 「オープンキャンパス」では学生による学科説明や校内見学案内補助、及び後援会役員保護者の協力による保護者向け企画(懇談会)などを実施し、好評を博した。「入試説明会」も中学生が進路を確定する前の9~11月にかけて9会場で12回実施した。中学校教員向けの説明会も本校のほか比較的志願者数の多い一帯に近い場所として新潟市、三条市でも開催した。中学校主催の「高校説明会」には36校から招かれて参加し、小中学校等の依頼で実施した「出前授業」は27件実施した。また、「上級学校訪問」は11校を受け入れた。いずれも学校説明や体験学習などの実施をとおして、本校の魅力をPRできた。</p>	<p style="text-align: center;">◎: 既に達成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上越地区での教員向け入試説明会を実施すべき ・各地域の中学校から長岡高専に入学した学生の近況を各説明会で紹介があるとよい
<p>②-1-1 男女共同参画推進室のホームページを活用するとともに、令和3年度にリニューアルした冊子を女子生徒や保護者に配布し、女子中学生への広報活動を進める。</p> <p>②-1-2 本校に適正を持つ女子中学生の獲得に向けて、女子中学生向けの進路相談会や科学体験・講演会を実施する。また、オープンキャンパスで女子中学生を対象としたブースを出展する。</p>	<p>②-1-1 昨年度改訂した「長岡高専ガール」をオープンキャンパスや出前授業で配布し、広報活動を進めている。</p> <p>②-1-2 女子部を活用して、オープンキャンパスにて女子中学生を対象としたブースを出展した。学園祭ではポスター掲示および工作教室を計画している。また、女子中学生限定出前授業を8月9日(月)に開催し、計8名が参加した。また、1月23日(月)には旭岡中学校にて開催し、計11名が参加した。</p>	<p style="text-align: center;">×: 年度末時点で達成できない</p>	<p>②-1-2 進路相談会が実施できていない。</p>
<p>②-2-1 海外との交流活動は随時ホームページに掲載するとともに、適宜SNS等を活用する。</p> <p>②-2-2 公式ホームページの英語版の内容を点検し、コンテンツの更新と充実をはかる。英語版の学校紹介動画コンテンツやプレゼンテーション資料の活用をはかる。</p>	<p>②-2-1 交流活動は随時公式ホームページで紹介した。さらに、国際交流イベントのシーンを多く使用した海外版PR用動画を更新し、公式ホームページ上で公開した。</p> <p>②-2-2 公式ホームページの英語版の内容を点検し、学校紹介や学科紹介のコンテンツを充実させた。英語版の学校紹介動画コンテンツも今年度更新した。</p>	<p style="text-align: center;">◎: 既に達成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、イベントごとに遅延なく周知する。
<p>③ 社会の変化と要請からアドミッションポリシーを適宜見直すとともに、より意欲と資質の高い入学者を確保するため、入試の選抜方法と選抜基準を改善する。また、機構と連携し、「最寄り地受験」など受験生の利便性拡大に対応するとともに、Web出願システムの導入および「複数校志望受験制度」の推進について対応を行う。</p>	<p>③ MCC改訂に基づき、アドミッションポリシーの見直しを昨年度から行い、現在は各種説明会でアドミッションポリシーの中学生および関係者の周知を行っている。推薦選抜制度についての学内議論も再開し、さらに、本校の入試制度の明確さを追求し、一般入試から学力入試への名称変更、学力入試への確約書の導入などを進めた。「最寄り地受験」も導入してから年数が経過し、県外受験生が受験しやすい環境が普及した。Web出願の導入1年目であるが、トラブルのないよう各種説明会でweb出願についての説明、学内においても問題点の洗い出しを行い、万全を期している。</p>	<p style="text-align: center;">◎: 既に達成している</p>	<p>web出願をトラブルなく導入できた。アドミッションポリシー他、3つのポリシーの改定も実施した。最寄り地受験も行い、県外受験生も増加し、学力試験の確約書の導入により、併願による受験生の県立高校への流出も防止できた。</p>

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1-1 社会ニーズと地域の特色を生かした教育課程を編成し、その内容を効果的に教育できる指導方法の実践、学科を越えた教員の配置、あるいは学科の一部再編について検討する。</p> <p>①-1-2 専攻科における連携教育やダブルディグリープログラムなど様々な教育プログラムに適応した4学期制カリキュラムの改善を行う。</p>	<p>①-1-1 地域企業から講師を招いて授業を行う技術科学フロンティア概論を実施するとともに、In Portと連携し、長岡高専技術協力企業が授業等の教育活動に参画することを昨年度から継続している。学科横断のAI教育も継続中である。</p> <p>①-1-2 専攻科委員会において、令和5年度に向けたカリキュラムの確認と必要に応じて対応を行い、9月に学位授与機構へ届出を行った。</p>	◎: 既に達成している	
<p>①-2-1 長岡高専専攻科・長岡技術科学大学の連携による連携教育プログラムの履修者及び履修希望者のいる専攻・課程を優先的にカリキュラムの対応・構築を進める。</p> <p>①-2-2 長岡高専技術協会(約200社)、地域企業と連携した課題解決型教育プログラム(JSCOOP)を実施する。また、地域企業との教育・研究活動をさらに活性化するため、技術協会への入会企業の獲得に務めるとともに、地域企業を知る機会として、インターンシップ説明会や企業ガイダンスを実施する。</p>	<p>①-2-1 長岡高専専攻科・長岡技術科学大学の連携による連携教育プログラムに在籍する学生への履修支援を継続するとともに、新たにR5年度連携教育プログラムへの入学1名が予定されている電子機械システム工学専攻(電気電子システム工学科出身)長岡技術科学大学電気電子情報工学課程のカリキュラム構築を進めている。また連携教育プログラムのPRとして、本科4年生向けに、9月の保護者会での資料配布、特色ある教育プログラムガイダンス(10月3日)や進路ガイダンス(令和5年1月12日予定)において連携教育プログラムの説明を行った。</p> <p>①-2-2 長岡高専技術協会と地域企業と連携した課題解決型教育プログラム(JSCOOP)を実施した。技術協会法人会員企業は現時点で299社となり大幅に増加した。本年5月にはインターンシップ説明会を実施し、本年12月には企業ガイダンスを実施する予定である。</p>	◎: 既に達成している	
<p>②-1-1 フィンランドのトゥルク応用科学大学とのダブルディグリープログラムへの学生の派遣体制の構築を進める。</p> <p>②-1-2 海外協定校との連携により、トビタテ!留学JAPANやJASSO支援等を積極的に活用し、学生の海外留学を推進する。</p>	<p>②-1-1 フィンランドのトゥルク応用科学大学(TUAS)とのダブルディグリープログラムへの派遣に向けた本プログラムのPRとして、本科4年生向けに、9月の保護者会での資料配布、特色ある教育プログラムガイダンス(10月3日)、進路ガイダンス(令和5年1月12日)においてTUASとのダブルディグリープログラムの説明を行い、本プログラムに興味・関心のある学生の把握を行った。</p> <p>②-1-2 タイとシンガポールの海外協定校(泰日工業大学、ナンヤンポリテクニク)でPBL型研修を3月下旬に実施した。</p>	◎: 既に達成している	<p>②-1-1 受け入れ学生向けの学外実習・長期学外実習の受け入れ先の確保が大きな課題である。また、受け入れ可能科目として英語で提供できる科目数に限りがあり、TUAS学生の履修科目の選択肢を増やすためにも、TA等の補助を条件に受け入れ可能とする科目を履修できるようにし、受け入れ研究室の研究費の確保など、授業や研究において対応する教員へのサポート体制の検討が必要。</p> <p>②-1-2 タイとシンガポール以外の協定校派遣も実施できるか継続して検討する。</p>
<p>②-2 学生の英語基礎力だけでなく思考力、実践力および挑戦力を段階的・多角的に育成するために、全学的協働体制の下、協定校や高専機構と連携し、グローバルエンジニア育成事業に採択された2つのプログラム「Nagaoka CO-CORE Visionに基づく低学年からのグローバル人材育成」(本科1～3年対象)および「Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人材の育成」(本科4年～専攻科2年対象)を推進する。</p>	<p>②-2 グローバルエンジニア育成事業では、様々な面で学生の支援を行っている。特筆すべきことは、1学年から4学年まで、デザイン思考をベースにしたHands-onベースの英語授業を外国人講師がティームティーチングで実施し、学生の英語力だけでなく、思考力・協働力の育成を行っている。GE開始年度から年度進行で既設科目を改編してきたが、本年度で1～4年度が出揃うこととなる。各年度末には、英語力、協働力、思考力、創造力が身についたかの振り返り調査を行うが、どの学年においても9割以上の学生が身についた実感を抱いている。GE事業では工学の学位(博士)を取得した外国人講師を採用し、学生の教育に当たらせている。うち一名は、パーマネントの常勤講師として勤務している。本事業の開講科目のみならず、専攻科生向けの開講科目であるグローバルディベートや、特別研究発表(英語)の指導においても一助となっている。</p>	◎: 既に達成している	<p>②-2 グローバルエンジニア育成事業で改編を行った英語授業内のアンケートでは、海外留学した学生が54%、短期海外派遣研修に参加したい学生が70%以上いることが明らかとなった。この需要に見合うプログラムの提供や、補助金制度の拡充が求められる。</p>

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-1-1 全国高専体育大会や全国高等専門学校ロボットコンテストなど各種コンテストへの積極的な参加を支援する。 ③-1-2 大会等で顕著な成績をあげた学生に対して表彰を行う。	今年は、全国高専体育大会や高等専門学校ロボコン大会へも出場している。また、顕著な成績をあげた学生に対しても表彰を実施した。	◎: 既に達成している	
③-2 ボランティア活動への参加を推奨するとともに、顕著な活動を行った学生及び学生団体の顕彰を行う。	令和4年12月及び令和5年1月に長岡地域周辺にて大雪となり、学生が近隣住宅への除雪作業を行い、住民の方から感謝の連絡があった。 それに伴い、本校では学生に対し善行賞とし、表彰することとした。	◎: 既に達成している	
③-3 学生に「トビタテ！留学JAPAN」やJASSO支援の制度等を積極的に紹介し、学生の海外留学を促進する。	JASSO支援の制度を活用して、2023年3月にタイ(タイ日工業大学)とシンガポール(ナンヤンポリテクニク)に学生派遣を実施する計画をすすめている。 トビタテ留学JAPANについては採択者が1名いたものの、本人希望で辞退となった。	◎: 既に達成している	派遣が実施できたが、航空運賃や現地バス代などの高騰や物価高により初期の提示費用よりも高くなり後援会より支援をいただいた。
(3)多様かつ優れた教員の確保 ①-1 多様な背景を持つ教員組織とするため、教員採用の公募制を継続する。採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者を幅広く採用する。 ①-2 教員採用においては、専門科目(理系一般科目)については博士の学位や技術士を有する者、理系以外の一般科目については修士以上の学位を有する者を公募により採用する。専任教員のうち、この要件を満たす教員の比率を、専門科目担当の教員について90%、理系以外の一般科目担当の教員については85%を下回らないようにする。	①-1 今年度は新規の教員採用を行う予定なし。 ①-2 専門科目(理系一般科目)担当教員について、博士の学位や技術士を有する者の割合は96.6%である。 理系以外の一般科目の教員について、修士以上の学位を有する者の割合は100%である。 (いずれも令和5年3月31日現在)	◎: 既に達成している	
② 社会人向け生涯教育(リカレント)事業をはじめ、高専と連携企業間の教育と研究、さらには大学等との連携を進め、クロスアポイントメント制度導入の支援体制を確立し、実施を推進する。(物質工学科連携教育クロスアポイントメント教員1名)。	生涯教育(リカレント)事業に係る民間企業所属の技術者1名と、長岡技術科学大学との連携教育に係る教員1名を配置し、関係する授業・指導に対応している。	◎: 既に達成している	クロスアポイントメント制度により人材を確保するためには、当該の者の雇用元と多くの調整が必要となることから、専門のコーディネーター等の調整担当者の配置が必要。

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③ 定期的にライフステージに応じた懇談会の開催やアンケートを実施し、職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。また、ダイバーシティ事業を活用し、女性教員の働きやすい環境整備を継続的にすすめる。	JSTダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)本事業の取組にて相談員の配置(長岡技科大との共同利用)、研究補助員制度、ライフイベント復帰支援制度を構築し、運用している。	◎: 既に達成している	
④ 学内における多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、様々な文化的背景を持つ多様な人材(例えば外国籍人材など)が公募に応じやすくなるような環境を整える。 ※外国人に限定しての公募は不可。 (職業安定法・労働基準法をはじめとした労働関連法令においては、国籍による差別的扱いを一切禁止しており、あくまでも本人の適性・能力による選考・採用が求められている。(日本国憲法第22条、職業安定法第2条および第3条など)。従って募集にあたっては、否定的であれ、肯定的であれ、国籍を条件とする、または制限する表記は応募資格欄に限らず原稿内全てにおいて認められない。)	今年度は、関係する教員公募がなく該当しない。	該当なし	
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を実施する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても、可能な範囲で実施する。	⑤長岡技術科学大学より1名の教員をクロスアポイントメント制度を活用して受け入れている。また、沖縄工業高等専門学校へ教員1名人事交流(派遣)を実施した。	◎: 既に達成している	
⑥ 学校の枠を超えた情報収集、情報交換を目的として、昨年度に引き続き「他高専の事例に学ぶFD・SD研修会」を企画・開催する。また、教職員の能力向上を目的として、クリティカルシンキング等の思考力向上に資する研修会を企画・開催する。	9月12日に茨城高専関係者を招き「他高専の事例に学ぶFDSD研修会(茨城高専)」を実施。5月～7月にかけて全3回でワークショップ形式の研修会(長岡高専のこれからを考える。5月12日・6月8日・7月11日)を実施。3月22日に木更津高専関係者を招き「他高専の事例に学ぶFDSD研修会(木更津高専)」を実施。	◎: 既に達成している	
⑦ 教務主事や学生主事らによる推薦を経て、全学的な事業や教育改革等に貢献した教員や教員グループを教員表彰制度により表彰する。	教員顕彰制度は年度末に行われ、研究や社会貢献のみならず、校内の教育活動に顕著な貢献をした教員の表彰も実施する予定である。	◎: 既に達成している	全教職員が賛同可能な教育評価の指標の策定の困難さ
(4) 教育の質の向上及び改善 ① 一昨年度改訂したディプロマポリシーに基づき、次期モデルコアカリキュラムに対応する新カリキュラムを検討することで教育の実質化を更に進めるとともに、教育実践のPDCAサイクルを機能、定着させるフローを検討、具体化する。また、教育内容の豊富化を図る具体的な手段として、昨年度開発したバーチャルキャンパスを活用し、外部講師を招聘した授業を実践するなど、多様な学びの機会を学生に提供する。教育指導の質の向上を図るために、昨年度定めた数理データサイエンス・AIスキル、課題解決型授業スキルの尺度を活用した全学的なFDを実施するとともに、国際会議CDIO、ISATEIに教員を派遣し、海外の好事例の情報収集を行う。「他高専の事例に学ぶFD・SD研修会」を開催するとともに、他高専におけるFD講演会を実施し、高専間の好事例の共有を促進する。	①4月からDPIに基づく各学科での養成すべき人材像のアップデートについて議論を進め、とりまとめた改定案を教務委員会へ提出した。並行して、5月～7月にかけて、新カリキュラム検討に関連したワークショップ形式の意見交換会及び、アンケート形式での意見聴取を行い、新カリキュラム検討における留意事項としてとりまとめ、各学科での新カリキュラム検討につなげている。 7月に教学マネジメント準備WGを立ち上げ、アセスメントプランの原案を作成するとともに、キャリア支援システムを活用した教育改善のための分析を試行し、新カリキュラムの検討につなげている。 数理データサイエンス・AIスキル、課題解決型授業スキルの教員セルフチェックを実施し、順調な伸びを確認した。また、必要なスキルを育成するため、昨年度より発展的な内容で、9月13日-14日にAIに関する研修会を開催した。 6月13-15日にアイスランドで開催された第18回CDIO国際会議に参加した2名の教員から、6月23日に好事例の学内共有が行われた。	◎	

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
② 令和3年度の機関別認証評価結果を受けて、課題等の改善と継続的な自己点検を行い教育・研究の質の向上に努める。 また、モデルコアカリキュラムに基づく質保証の枠組みを構築するために、アセスメントプラン、データ分析体制、教学マネジメント体制を整備する。	自己点検項目及び聴取すべきアンケートを、6/2の自己点検評価改善委員会において策定し、各担当委員会等へ現状の評価と改善案の検討を指示した。11/18を期限に各委員会から報告書の提出を受け、本校HPIに公開予定である。 7月に教員及び事務担当者からなる教学マネジメント準備WGを立ち上げ、アセスメントプランと関連規程の整備を行った。	◎: 既に達成している	
③-1-1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))の典型例として本校のJSCOOPを継続的に推進する。具体的には、これまでJSCOOPに協力する地域企業は建設関係の企業が多かったが、本年度は本校技術協力会と連携し、建設業以外の業界からのJSCOOPへの参画を促進し、学生が取り組む課題の多様化を図る。 ③-1-2 地域の理工系人材の早期発掘、育成の好事例とするため、見附市立葛巻小学校と連携してプログラミング教材を開発、実践することで、同小学校のSTEAM教育支援を行う。また現在、本校低学年で実践しているクリティカルシンキング、デザインシンキングを取り入れた英語授業や、AIR Tech(AI, IoT, ロボット)リテラシー教育を基に、STEAM教育の高度化を狙った本校・新カリキュラムを検討する。	③-1-1 本年度のJSCOOPでは建設業界以外からの課題にも取り組んでおり学生が取り組む課題の多様化がなされている。 ③-1-2 見附市立葛巻小学校と連携してプログラミング教材を開発し、実践することで、同小学校のSTEAM教育支援を実践している。また、STEAM教育の高度化を狙ったキャリア教育やAIRTech(AI, IoT, ロボット)に関する本校・新カリキュラムについて、教務委員会と連携し学内審議を進めている。	◎: 既に達成している	③-1-1 学生、担当教員の負荷が課題である。また、受講学生の学科に偏りがあり、分野横断の実現に課題が残る。
③-2 企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、インターンシップ等の共同教育を実施する。	③-2 ・地域産業と技術の理解を目的として、学生が企業訪問と取材をとおし企業のPR原稿作成を実施した。 ・地域企業が抱える問題を学科・専攻科横断の混成チームで解決する課題解決プログラムを地域企業と連携し実施している。	◎: 既に達成している	
③-3 情報セキュリティと情報教育に関する学内組織を充実させると共に機構と連携し、これらに関わる教育内容の見直しと改善を行う。	③-3 情報セキュリティ関連の情報は全教員に共有し、啓蒙活動を続けている。情報セキュリティ関連の学内組織を結成し、インシデント発生防止、また、学生主事と連携して本校学生への情報セキュリティ教育にも力を入れている	◎: 既に達成している	
④ 長岡技術科学大学をはじめとする市内4大学、長岡商工会議所、長岡市とで2017年に設立したNaDeC構想に関するコンソーシアム推進会議、運営委員会等を定期的に開催し、協働教育等の有機的な連携を更に推進する。市内4大学1高専間で、2021.3.24に締結した単位互換協定に基づき、eラーニング等を活用した教養科目や専門科目の更なる充実に向けて検討を進める。	第1回NaDeC構想に関するコンソーシアム会議が6月21日にNeDeC BASEで開催された。第2回は11月上旬の見込み。ワーキングスペースNaDeC BASEを活用して開催された。①起業家育成プログラム・リーンローンテッドプログラム(5月21日～8月6日の間で土曜日を中心に全6回)、②長岡高専と長岡造形大学との連携講座(ミズを活用した持続可能性社会の提案と実装、7月3日～8月26日)に、長岡造形大等との協働チームで長岡高専の学生が参加。また、そのようなきっかけでデザインに興味を持った専攻科生が造形大の科目を受講するなど、学生の多様な学びを生む環境整備が着実に進んでいる。	◎: 既に達成している	
(5) 学生支援・生活支援等 ①-1 カウンセラーの配置の充実を図るとともに、ソーシャルワーカーや特別教育支援士等の専門職の配置を推進する。 ①-2 学生相談室を核として、障害を有する学生への支援を含めた学生指導に関して校内研修会を実施する。	①-1 年度当初からカウンセラーを配備し、学生相談室と連携し学生対応を実施している。 ①-2 保護者又は学生の申請に基づき、特別障害支援チームを立ち上げ実施している。校内研修は現在のところ実施の予定はない。	◎: 既に達成している	
② 高等教育の教育費負担軽減に伴う奨学金制度については、法人本部との情報共有を推進する。また、ホームページ及び刊行物等で広く保護者等にも通知する。	高等教育の教育費負担軽減に伴う奨学金制度については、ホームページ、Teams、保護者向けメール及び郵便物等広く保護者等に案内している。	◎: 既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
<p>③-1 高専入学から卒業までを一貫した手引書「キャリアガイド」を作成、配布する。その「キャリアガイド」を基にしたポートフォリオ教育を具体化し、学内で共有化することでキャリア支援体制の充実を図る。その成果を今後継続的に測るため、PROGテストを、第1、3、5学年、専攻科第2学年を対象に引き続き実施する。</p> <p>③-2 低学年からのキャリア教育の一環として、第3学年向けのダイバーシティ講演会、女子学生向けのロールモデル講演会・茶話会などを開催する。</p>	<p>③-1 2022年度学科入学生へキャリアガイドを配布するとともに、在校生全員にキャリアガイド別冊(卒業生の声)を配布。キャリア支援システムみらいテラス上で、キャリアデザインポートフォリオの運用を開始した。2022年度入学生に対するPROGテストを実施した。</p> <p>③-2 第3学年向けのダイバーシティ講演会は現在日程調整中である。また、女子学生向けのロールモデル講演会は2月22日に開催した。</p>	◎: 既に達成している	
<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>①-1 広報資料の作成や「国立高専研究情報ポータル」等のホームページの充実などにより、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。</p> <p>①-2 R2に作成した企業の技術シーズ集の拡充を図る。</p> <p>①-3 教員技術シーズ集の作成について検討する。</p>	<p>①-1 HP上の教員プロフィール集(web新規様式)を新規作成し、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信した。</p> <p>①-2 令和3年技術協力会シーズ集を作成した。</p> <p>①-3 企業や地域のニーズを伺い、記載項目を新規に構築した2022教員プロフィール集を作成した。(地域連携)</p>	◎: 既に達成している	
<p>②-1 技術協力会から活動資金を得てコーディネーターを雇用する。コーディネーターが中心となり、地域企業や自治体等のニーズ及び教員シーズを把握し、技術相談、受託研究、共同研究活動を促進する。</p> <p>②-2 第二ブロックの高専内で各校の技術相談に共同で対応するシステム提案と試行を行う。</p>	<p>②-1 コーディネータを核とした産学連携により、受託研究は昨年度比198%(19,268千円→38,276千円)、共同研究は172%(16,553千円→28,465千円)に増加した。</p> <p>②-2 Teams上で地域企業からの技術相談を第二ブロック高専内で共有するシステムは構築し、試行中である。</p>	◎: 既に達成している	第二ブロック各高専の教員の技術シーズの集約と高専を横断した、コーディネータによるマッチングが課題である。
<p>③-1 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点と開催の必要性などから総合的に判断して中止したが、令和4年度は報道機関のニーズを聞きながら令和元年度のような「記者懇談会」を企画・開催を検討する。</p>	<p>③-1 現時点で「記者懇談会」の開催はニーズがなく、企画の検討は行っていない。引き続き、今後も開催の必要性・ニーズがないか確認・検討を行っていく。</p>	◎: 既に達成している	
<p>③-2 これまでと同様に、大きなイベントや学生・教職員の目覚ましい活躍などについては本校Webサイトに記事を掲載するとともに、程度・必要に応じ積極的にプレスリリースを行う。また、動画を積極的に活用するなど広報手段の改善を図ると共に本校が関係する報道情報収集に努め、新聞やテレビ等のメディアに記事掲載等のあった際は、報道内容及び報道状況について随時法人本部に報告を行う。</p>	<p>③-2 4月以降から現時点まで、地域連携活動や学生活動、学校行事、国際交流等に関する記事を本校Webサイトにおおよそ合計70件程度掲載した。また、プレスリリースは5件行った。なお、本校が関係している事業で本校以外の公官庁等からプレスリリースを行う場合もあった。</p> <p>本校に係るメディア掲載・放送等については情報の集約に努め、特筆すべきトピックについては法人本部への報告も随時行った。</p>	◎: 既に達成している	
<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 マレーシア在日本国大使館やJICAマレーシア事務所との組織的・戦略的な連携の下に、マレーシア政府人的資源省傘下のJMTI及びADTCE校の支援に取り組む。</p>	<p>マレーシア政府人的資源省傘下のADTCE校との学生PBL型オンライン交流を教育支援の一貫として計画中。</p>	×: 年度末時点で達成できない	年度中にオンライン研修はできなかったが、次年度に現地への派遣20名の協議が行われ実施することとなった。
<p>①-2 モンゴル3高専の支援を継続して行う。</p>	<p>モンゴル高専教員3名の教員受入れを受諾していたが、機構からの派遣予算がないとのこと受入れが見送られた。新モンゴル高専教員が2月8日に来校し本学の高専教育を視察した。モンゴル留学生を引き続き受け入れている。</p>	×: 年度末時点で達成できない	数か月間の期間での受け入れが困難であり数日間の受け入れについて打診したが、実施には至らなかった。予算支援がなく招聘が困難であった。

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
①-3 タイ高専の支援を継続して行う。	タイ高専の現地教員として本学教員を派遣している。タイ高専からの留学生受入れを継続している。理事長、タイ教育省ならびにPCSHS教育関係者の団体訪問を受け入れ、在籍タイ学生の現状と改善等について協議した。	◎: 既に達成している	タイ高専留学生への教育支援が必要(日本語含む)。
①-4 モンゴル3高専の支援とタイ高専支援の経験を生かして、適切な助言を行う。	ベトナムへの高専展開に関する支援情報がなく、進展に至っていない。	該当なし	現在ベトナムとの接点が無い。
①-5 諸外国の政府関係者、教職員の訪問を積極的に受け入れて、「KOSEN」の教育制度の紹介に努める。	タイ教育省ならびにPCSHS教育関係者の団体訪問を受け入れ、在籍タイ学生の現状と改善等について協議した。	◎: 既に達成している	授業担当者の時間調整が必要である。
② 本校で取り組んでいるモンゴル3高専支援活動とタイ高専支援活動を通じ、校内における教職員・学生の国際化を進めていく。	タイ高専への教員派遣が継続されている。また、タイ高専からの留学生を受け入れており教職員と学生の国際化意識は向上している。	◎: 既に達成している	タイ高専留学生への教育支援が必要(日本語含む)。
③-1-1 協定校であるトゥルク応用科学大学(フィンランド)とのダブルディグリー制度の派遣受け入れ体制の構築を進める。 ③-1-2 海外協定校を活用して、学生の海外留学を推進する。	③-1-1 フィンランドのトゥルク応用科学大学(TUAS)とのダブルディグリープログラムへの派遣に向けた本プログラムのPRとして、本科4年生向けに、9月の保護者会での資料配布、特色ある教育プログラムガイダンス(10月3日)、進路ガイダンス(令和5年1月12日)においてTUASとのダブルディグリープログラムの説明を行い、本プログラムに興味・関心のある学生の把握を行った。 ③-1-2 タイとシンガポールの海外協定校(泰日工業大学、ナンヤンポリテクニク)でPBL型研修を3月下旬に実施した。	◎: 既に達成している	③-1-1 受け入れ学生向けの学外実習・長期学外実習の受け入れ先の確保が大きな課題である。また、受け入れ可能科目として英語で提供できる科目数に限りがあり、TUAS学生の履修科目の選択肢を増やすためにも、TA等の補助を条件に受け入れ可能とする科目を履修できるようにし、受け入れ研究室の研究費の確保など、授業や研究において対応する教員へのサポート体制の検討が必要。 ③-1-2 タイとシンガポール以外の協定校派遣も実施できるか継続して検討する。
③-2 学生の英語基礎力だけでなく思考力、実践力および挑戦力を段階的・多角的に育成するために全学的協働体制の下、協定校や高専機構と連携し、グローバルエンジニア育成事業に採択された2つのプログラム「Nagaoka CO-CORE Visionに基づく低学年からのグローバル人材育成」(本科1～3年対象)および「Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人材の育成」(本科4年～専攻科2年対象)を推進する。	③-2 1学年から4学年まで、デザイン思考をベースにしたHands-onベースの英語授業を外国人講師がティームティーチングで実施し、学生の英語力だけでなく、思考力・協働力の育成を行っている。GE開始年度から年度進行で既設科目を改編してきたが、本年度で1～4年度が出揃うこととなる。各年度末には、英語力、協働力、思考力、創造力が身についたかの振り返り調査を行うが、どの学年においても9割以上の学生が身についた実感を抱いている。GE事業では工学の学位(博士)を取得した外国人講師を採用し、学生の教育に当たらせている。うち一名は、パーマネントの常勤講師として勤務している。本事業の開講科目のみならず、専攻科生向けの開講科目であるグローバルディベートや、特別研究発表(英語)の指導においても一助となっている。	◎: 既に達成している	②-2 グローバルエンジニア育成事業で改編を行った英語授業内のアンケートでは、海外留学した学生が54%、短期海外派遣研修に参加したい学生が70%以上いることが明らかとなった。この需要に見合うプログラムの提供や、補助金制度の拡充が求められる。
③-3 学生に「トビタテ! 留学JAPAN」の制度やJASSO支援事業等を積極的に紹介し、学生の海外留学を促進する。	JASSO支援の制度を活用して、2023年3月にタイ(タイ日工業大学)とシンガポール(ナンヤンポリテクニク)に学生派遣を実施する計画をすすめている。 トビタテ留学JAPANについては採択者が1名いたものの、本人希望で辞退となった。	◎: 既に達成している	派遣が実施できたが、航空運賃や現地バス代などの高騰や物価高により初期の提示費用よりも高くなり後援会より支援をいただいた。
④-1 国際交流推進センターとの連携を強化し、公式ホームページの英語版の内容を点検し、本校が取り組む次世代人材育成プログラムに関するコンテンツの更新と充実をはかる。英語版の学校紹介動画コンテンツやプレゼンテーション資料の活用をはかる。	④-1 公式ホームページの英語版の内容を点検し、学校紹介や学科紹介のコンテンツを充実させた。英語版の学校紹介動画コンテンツも今年度更新した。動画コンテンツの更新は、国際交流推進センターと連携しながらスムーズに実施できた。	◎: 既に達成している	「本校が取り組む次世代人材育成プログラムに関するコンテンツ」をどのように表現するか、を引き続き要検討。
④-2 チュラポーン女王サイエンスハイスクールの中等部を卒業した学生の受け入れを継続して行う。また、タイ高専からの編入があった場合はタイ人留学生をしっかりとサポートしていく。	PCSHSからの留学生は今年度も2名受け入れ、日本の生活やクラスにも慣れてきている。タイ高専からの留学生は、今年度は2名受け入れ、クラスには慣れてきている。日本語に課題があるので放課後に補習を行っている。	◎: 既に達成している	2年連続でタイ高専からの留学生を受け入れているが、彼らには日本語に課題がある。この問題にどう取り組んでいくかが課題である。

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
⑤ 東京出入国在留管理局に対する留学生在籍者報告を遅滞無く行い、その際本学に在籍する留学生の在籍状況・資格外活動取得状況を把握する。	新規受入及び定例5月の東京出入国在留管理局に対する留学生在籍者報告時に留学生の在籍状況を把握し、遅滞無く行った。 定例の11月にも遅滞無く行い、その際に留学生の在籍状況・資格外活動取得状況を把握した。	◎: 既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2. 1 一般管理費等の効率化</p> <p>一般管理費の縮減に必要な業務運営の見直し、光熱量などの縮減及び業務の効率化の推進を図る。</p>	<p>一般管理費等の縮減については、令和4年度予算の所要額調べ作成(4月13日)の際に「継続して実施してきた事項についても見直しを行い、廃止や縮小の検討を行う」旨依頼して、真に必要な事業経費の申告を促したうえで、校長・事務部長ヒアリング(6月7日)にて予算計画を策定することで適正かつ効率的に一般管理費の縮減に必要な業務運営の見直し、経費の削減を図った。</p> <p>また、光熱費高騰に伴う省エネの徹底について、第3回企画運営会議(6月15日)及び教職員宛メール(6月29日)にて協力依頼を行った。</p>	◎: 既に達成している	
<p>2. 2 給与水準の適正化</p> <p>※該当なし</p>			
<p>2. 3 契約の適正化</p> <p>契約は計画的に行うこととし、原則として一般競争入札等によることとする。また、機構作成の「契約事務等の取扱について」などを活用し、契約内容の競争性、透明性を確保する。</p>	<p>契約は計画的に実施し、原則として一般競争入札等により実施した。また、機構作成の「契約事務等の取扱について」を活用し、契約内容の競争性、透明性の確保に努めた。</p>	◎: 既に達成している	
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <p>教育研究機能の強化に資する取り組みを重点に推進するため、予算編成にかかる基本方針を定め、予算の効率的かつ効果的な学内配分を行う。</p>	<p>予算編成及び執行にあたり、4月20日開催の企画運営会議において、「令和4年度予算編成に係る基本方針」等策定し、本方針に基づき、令和4年度予算配分を行った。</p> <p>各予算科目の配分にあたり、所要見込額についての校長・事務部長ヒアリング(6月7日)を実施し、必須経費以外については、5～50%縮減し、効率的かつ効果的な予算配分を行った。</p>	◎: 既に達成している	
<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>3. 2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費等の競争的外部資金獲得を目的とした講習会等を実施する。 ・地域創生教育研究室がコーディネーターと協働し、国や県の補助金を積極的に活用し、受託研究や共同研究の実績増に繋げる。 ・本校技術協会と緊密な連携を図り、会員企業数を増やし、本校の教育研究活動資金の獲得に繋げる。 ・教員の研究活動に従事できる時間の確保について検討を行う。 ・大型外部資金を獲得した教員の支援体制について検討する。 <p>3. 2-2</p> <p>本校ホームページの寄附金案内ページにおける周知方法や申込み方法、決済方法等の見直しを行い、寄附者にとってより寄附を行いやすい仕組みとなるよう改善を図る。</p>	<p>3. 2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費等の競争的外部資金獲得を目的とした講習会を実施した。 ・地域創生教育研究室がコーディネーターと協働し、国や県の補助金を積極的に活用し、受託研究や共同研究の実績増に繋がった。 ・R3年度末の技術協会の会員企業数は238社だったが、現時点で299社まで増加した。 ・教員の研究活動に従事できる時間の確保について、研修会を開催し、事務補佐員・技術補佐員の雇用を促進した。 ・大型外部資金(1件1000万円以上)を獲得した教員の校務負担軽減を行った。 <p>3. 2-2 寄附金受入通知等に押印を廃止し、決裁スピードを迅速にし、寄附者への利便性向上を図った。</p> <p>また高志台さくら基金については、寄附者の利便性向上のため、電子決済方式の導入を検討しており、寄附ページのバナーを本校ホームページのトップページ上部に移動させ、よりアクセスがしやすくなるよう改善を行う予定である。</p>	◎: 既に達成している	3. 2-1 科研費の申請率が学科によってばらつきがある。

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
3.3 予算 該当なし			
3.4 収支計画 該当なし			
3.5 資金計画 該当なし			
4. 短期借入金の限度額 4.1 短期借入金の限度額 ※該当なし 4.2 想定される理由 ※該当なし			
5. 不要財産の処分に関する計画 手続きに関する指示待ち	不要財産の現物による若草1丁目団地の国庫納付が完了した。	◎: 既に達成している	
6. 重要な財産の譲渡に関する計画 ※該当なし			
7. 剰余金の使途 ※該当なし			
8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8.1 施設及び設備に関する計画 ①-1-1「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」等に基づき、建物の改修計画を立て、給排水、電気・ガス等の基盤設備の適切な整備計画を盛り込む。	①-1-1 教育施設整備計画の見直しを行い、5号館改修の新規予算要求を行った。	◎: 既に達成している	
本校該当なし			
② 高専機構本部より提供される「実験実習安全必携」の電子データを製本して学生に配付し、その内容について把握するよう指導する。	新入生に「実験実習安全必携」の冊子を配付した。第1回教務委員会において、授業における「実験実習安全必携」の活用のための学生指導を依頼した。	◎: 既に達成している	
③ 科学技術分野への男女共同参画を推進するため、女子学生の利用するトイレや更衣室等のリニューアルなど、就学・就業上の環境整備について、校内に照会した結果を踏まえ、実施可能なものから順次実施する。	女子寮改修工事に伴い、トイレの改修工事を行った。	◎: 既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
8. 2 人事に関する計画 ① 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。	① 常勤職員の人事交流として、長岡技術科学大学と2名の相互交流を行っている。令和4年10月に高専機構本部との交流者1名が復帰し、今後の活躍が期待される。 教職員対象に社会人向け生涯教育(リカレント教育)講座を企画、実施した。 教職員向けオンライン英会話レッスンを令和4年11月から令和5年1月まで実施した。	◎: 既に達成している	
② 国立高専機構の併任者、海外高専との連携者等において機構との人事交流の回数と人数を増やし、積極的な交流を推進する。	国立高専機構の併任者2名、海外高専との連携者1名を通じ、機構との交流を推進した。	◎: 既に達成している	
③ 教授等の上位職ポストの利用、学科に依存しない全学的な教員ポストの運用、などにより優秀な若手教員を確保する。	一般教育科、専門学科の区別無く、専門性・年齢構成・人数等に配慮した若手教員を確保できるように、上位職ポストの利用を行っている。	◎: 既に達成している	
④-1-1 専門科目担当教員の公募の際、応募資格として博士号の取得を義務づける。 ④-1-2 専門科目を担当する本学の教職員のうち、博士号を持たない者に学位を取得させるための取組を推進する。	④-1-1 今年度は新規の教員採用を行う予定はないが、今後実施する公募については、博士号の取得を義務づける。 ④-1-2 先輩教員(メンター)による新採用教員を支援する制度を活用し、今年度、1名が新たに博士号の学位を取得した。	◎: 既に達成している	
② 社会人向け生涯教育(リカレント)事業をはじめ、高専と連携企業間の教育と研究、さらには大学等との連携を進め、クロスアポイントメント制度導入の支援体制を確立し、実施を推進する。(物質工学科連携教育クロスアポイントメント教員1名)。	生涯教育(リカレント)事業に関係する民間企業所属の技術者1名と、長岡技術科学大学との連携教育に関係する教員1名を配置し、関係する授業・指導に対応している。	◎: 既に達成している	クロスアポイントメント制度により人材を確保するためには、当該の者の雇用元と多くの調整が必要となることから、専門のコーディネーター等の調整担当者の配置が必要。
④-3 定期的にライフステージに応じた懇談会の開催やアンケートを実施し、職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。また、ダイバーシティ事業を活用し、女性教員の働きやすい環境整備を継続的にすすめる。	JSTダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)本事業の取組にて相談員の配置(長岡技科大との共同利用)、研究補助員制度、ライフイベント復帰支援制度を構築し、運用している。	◎: 既に達成している	
④-4-1 学内における多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、様々な文化的背景を持つ多様な人材(例えば外国籍人材など)が公募に応じやすくなるような環境を整える。 ※外国人に限定しての公募は不可。 (職業安定法・労働基準法をはじめとした労働関連法令においては、国籍による差別的扱いを一切禁止しており、あくまでも本人の適性・能力による選考・採用が求められている。(日本国憲法第22条、職業安定法第2条および第3条など)。従って募集にあたっては、否定的であれ、肯定的であれ、国籍を条件とする、または制限する表記は応募資格欄に限らず原稿内全てにおいて認められない。) ④-4-2 GE事業などで採用した外国人教員を活用し理数系科目や専門科目の英語授業の推進を図る。GE事業で採用した外国人教員を既に常勤教員として採用した(R3年度)ため、当該教員のポテンシャルを活用した配置を検討する。	④-4-1 今年度は、関係する教員公募がなく該当しない。 ④-4-2 1年～4年で開講しているGE事業で推進している授業においては、GEで採用した外国人講師を中心に、学生の思考力・協働力の育成を目指し、既に英語での授業を進めている。専攻科開講科目グローバルディベートの授業においても、GE事業で採用した外国人講師が授業を行っている。令和3年度に採用した外国人教員は、令和4年度は産休・育休を取得中である。	◎: 既に達成している	④-4-2 GE事業より常勤教員として採用した教員(産休・育休中)は、令和5年度に復職予定。
④-5-1 ダイバーシティ推進室室員を研修会や講演会に積極的に参加させ、学内で報告会を開くなどして情報を共有する。 ④-5-2 ダイバーシティ推進室主催の講演会を開催し、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。	④-5-1 新潟大学ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)シンポジウム「高志の女性研究者開花システム構築」、豊橋技術科学大学ダイバーシティ推進センター講演会「LGBTQの学生・教職員に対する配慮～国際的動向と日本の現状から～」に出席した。 ④-5-2 JSTダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)本事業の取組にてダイバーシティ事業シンポジウム(11月30日)を開催した。	◎: 既に達成している	④-5-1 研修会や講演会に参加しているが、学内で報告会が未実施である。
⑤-1 多様な人材育成を図るための各種研修を計画・実施すると共に、国立大学や高等専門学校間の人事交流も計画的に実施する。(物質工学科准教授1名、沖縄高専、沖縄科技大と人事交流)	⑤-1 長岡技術科学大学と協働しダイバーシティの観点からFD研修を実施した。人事交流については、大学とのクロスアポイントメント制度による受け入れ及び、沖縄高専へ教員1名人事交流(派遣)を実施した。	◎: 既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和4年度 年度計画実績報告

令和4年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
(2) 人員に関する指標 常勤職員の能力向上のための取組を推進することで、業務の一層の効率化・省力化を行う。	常勤職員の能力向上のための取組として、機構本部主催の初任職員研修会へ2名、新潟県内国立大学法人等新採用職員研修に2名、新潟県内国立大学法人等中堅職員研修に1名の常勤職員が参加した。この他、担当業務別の研修を常勤職員が受講した。	◎: 既に達成している	
8. 3 情報セキュリティについて 8.3-1 校内システムの情報セキュリティ対策について、情報セキュリティ監査の結果を踏まえ、引き続き改善を行う。 8.3-2 教職員の情報セキュリティ意識向上のための啓発活動を実施する。 8.3-3 教職員に対し、情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための研修を実施する。	8.3-1 情報セキュリティ関連の規則について、機構本部の規定改訂に準じて見直しを行うとともに、情報セキュリティ監査において改善アドバイスのあった電子メールの自動転送の禁止について、電子メール利用ガイドラインの改正を行った。(2022年10月13日情報セキュリティ管理委員会) 8.3-2 日頃の機構本部が提供している情報セキュリティ情報の周知、長期休み前に情報セキュリティについて啓発する活動を行った。さらに、2023年3月2日から3月24日にかけて情報セキュリティに関するセミナーをオンデマンド形式で開催した。 8.3-3 2023年3月2日から3月24日にかけて情報セキュリティに関するセミナーをオンデマンド形式で開催した。	◎: 既に達成している	情報セキュリティセミナー対象者は本校の教職員全員であったが、受講率が35%程度と低く、本校教職員全体の情報セキュリティについての意識向上が必要である。標的型メール対応訓練においては、第一回目の報告率が33%、第二回目の報告率が56%と低かった。情報インシデントが発生した場合に問題の把握から解決までに長期化する恐れがある。
8. 4 内部統制の充実・強化 ※該当なし			